

ブダペスト国立工芸美術館名品展

ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ
—日本を夢見たヨーロッパ工芸

夏休み 親子で楽しむ美術館 **はじめての工芸** 【近現代工芸】



ルイス・カンフォート・ティファニー《孔雀文花器》
1989年以前 ブダペスト国立工芸美術館蔵
—企画展「ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ」より—

二代徳田八十吉《長寿飴皿》
—特別陳列「はじめての工芸」より—

■ 近代の美術 【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 古九谷と再興九谷 I 【古美術】

■ 没後50年 木村珪二 【近現代彫刻】

■ 優品選 【近現代絵画・彫刻】

- 〔展覧会回顧〕 かお・すがた・こころ—肖像と近代—
- 8月前半の展覧会
- 学芸室の人々
- 8月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

企画展(第7~9展示室)

ブダペスト国立工芸美術館名品展

ジャポニスムからアール・ヌーヴォーへ ー日本を夢見たヨーロッパ工芸

主催/国際北陸工芸サミットin石川実行委員会 後援/ハンガリー大使館
協力/ルフトハンザ カーゴ AG、ルフトハンザ ドイツ航空会社

8月15日(日)~9月12日(日) 会期中無休

ハンガリー・ブダペスト国立工芸美術館のコレクションの中から、ジャポニスムとアール・ヌーヴォーをテーマに、厳選した約百七十点の名品をご紹介します。

本展は6章から構成されており、ヨーロッパにおけるジャポニスム流行からアール・ヌーヴォー誕生までの流れを一望できるものとなっています。

1章「自然への回帰―歴史主義からジャポニスムへ」では、日本美術の影響が認められるヨーロッパの作品の中でも、最も強くその影響を受けたジャポニスムの初期段階の作品を紹介します。

2章「日本工芸を源泉として―触感的なかたちと表面」では、自然の造形を写した形や、偶発性に自由な創作の余地を残す釉薬の配合など、東洋の陶磁器の影響を受けたヨーロッパの作家たちの成果をご覧いただきます。

続いて3章「アール・ヌーヴォーの精華―ジャポニスムを源流として」では、ジャポニスムを源流のひとつとして誕生したアール・ヌーヴォー、やがて芸術のあらゆる領域へと広がりを見せるこれらの作品を体系的にご紹介します。

4章「建築の中の装飾陶板―一九〇〇年パリ万博のビゴ・パビリオン」では、アール・ヌーヴォーの流れを決定づけた一九〇〇年のパリ万博の会場を彩った建築用陶器群が、この度の展覧会で初めて日本で展示されます。

5章「もうひとつのアール・ヌーヴォー―ユージェントシユティール」では、幾何学的アール・ヌーヴォーともいわれる「ユージェントシユティール」の作品を集めました。

掉尾を飾る6章「アール・デコとジャポニスム」では、アール・ヌーヴォーに続く様式であるアール・デコにおいても、日本美術の影響が存続したことを示す作品をご紹介します。

以上に加えて、石川会場だけの特別展示として、かつて欧米への輸出用に制作されたジャパン・クタニの名品や、逆に石川へもたらされた欧米のアール・ヌーヴォー作品、そしてアール・ヌーヴォーの影響を受けて石川で制作された陶磁器などを展示いたします。

◆観覧料

一般…一〇〇〇円(八〇〇円)
大学生…八〇〇円(六〇〇円)
高校生以下…無料

※()内は20名以上の団体料金
※65歳以上の方および友の会会員は団体料金

※2階コレクション展観覧料を含みます
※身体障がい者・精神障がい者保健福祉・療育手帳

をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料

◆関連イベント(いずれも無料)

講演会「海を渡った日本工芸とジャポニスム」

日時…8月15日(日)13時30分~15時

講師…木田拓也氏(武蔵野美術大学教授・本展監修)

会場…当館ホール

定員…100名

申込…WEBまたはハガキにて受け付けます。

(締切…8月5日(木))

WEB…<https://kogeishikawajp/entry>
ハガキ…氏名(ふりがな)、住所、日中連絡の

つく電話番号を明記の上、締切日
必着で郵送してください。

宛先 〒920-0919

石川県金沢市南町2-1(株)

KCS内 国際北陸工芸サ

ミット事務局

問い合わせ先…国際北陸工芸サミット事務局

電話076-2208-4162

ミュージアムコンサート

日時…9月4日(土)13時30分~14時(13時開場予定)

演目…ハンガリー狂詩曲13番(リスト)ほか

出演…田島睦子氏(ピアノ)、相良容子氏(ピアノ)

会場…当館ホール

定員…100名(当日先着順)

問い合わせ先…兼六園周辺文化の森等活性化推進

実行委員会(石川県文化振興課内)

電話076-2225-1371

古九谷と再興九谷 I

8月12日(木)~9月12日(日) 会期中無休

「古九谷の美は、一見わかりやすそうであるが、必ずしもそうではないのだ。柿右衛門には甘美な情調とともに、その色にも線にも眼に直ぐ受入れられる感覚的秩序がある。古九谷にはそういう甘美な情調も感覚的秩序もないばかりか、自由な意匠と奔放な色の配置にはどこかに硬質なものが感ぜられ、それが最初は抵抗を呼ぶのだ。やがてその美の世界に入り込むと、それは汲めども尽きぬ豊かさ、いつまでも手応えのある強さとして、われわれの心を捉えて放さぬものとなるのだが、それを私は美の高さと呼ぶ。美の高さには鑑賞者も一挙には至り得ないのだ。古九谷はその美の高さをもっているのである。」(谷川徹三「古九谷の美」(集英社『古九谷』昭和四十六年所収)より原文のまま引用。

谷川徹三氏(一八九五~一九八九)は、哲学者ならではの深い洞察をもって古九谷の本質を見事に捉えています。この「美の高さ」こそが、色絵磁器という日本の新たな美術ジャンルで江戸幕府に挑み、文化による主体性を表明した加賀藩三代藩主・前田利常が目指したところだったのではないのでしょうか。そして「美の高さ」を表出するために、古九谷プロジェクトには、様々な人々の叡智が結集していったことが次第に明らかになってきました。

こうして古九谷に凝縮されたプロジェクト参画者の情熱や誇りが、時代を超えて人々を鼓舞して、採算性の課題に苦闘しながらも若杉や吉田屋などの再興九谷諸窯に結実し、今日に至る九谷ブランドが確立されました。



石川県指定文化財(色絵鳳凰図平鉢) 古九谷

近代の美術

8月12日(木)~9月12日(日) 会期中無休

本特集では、近代の前田家において購入された油彩画と日本画を紹介します。

今年の二月から三月にかけて、東京の目黒区美術館で「前田利為 春雨に真珠を見た人」という前田育徳会が所蔵する近代美術コレクションを紹介する展覧会が開催されました。昭和初期、前田家十六代利為が住まいした旧前田家本邸(駒場邸)と前田育徳会が目黒区にあることから開催された展覧会です。

利為のコレクションは、明治天皇の行幸を仰ぐべく明治四十年(一九〇七)、本郷に建設された西洋館の室内装飾用として購入された油彩画にはじまります。これらはパリで画商として活躍した林忠正の旧蔵品で、黒田清輝のあつせんによって四十三年(一九一〇)に前田家へ入りました。今回の特集では、目黒

区の展覧会では展示されなかったアルマン・ギョーマン《河岸荷揚所図》、ウジェーヌ・ルイ・ブーダン《洗濯婦図》、ヴィオレ・ル・デュック《牧場図》、ジャン・デュモン《中市街ノ風俗図》、フェデリコ・ロッツァーノ《森林群犬図》と《連山ノ景》を紹介します。

西洋館だけでなく、三十八年(一九〇五)には日本館も建設されました。この日本館の奥座敷二室に供えられたのが、橋本雅邦の襖絵ですが、こちらは来年二月下旬から公開します。

大正十五年(一九二六)に本郷邸の開放が決定します。これらの絵画は昭和初期に完成した駒場邸においても引き続き利用されました。駒場公園内の旧前田家本邸と和館は、当時の面影を今に伝えています。

夏休み 親子で楽しむ美術館 はじめての工芸

7月10日(土)~9月12日(日) 前期:7月10日(土)~8月8日(日・祝) 後期:8月12日(木)~9月12日(日)

※ただし8月9日~11日は展示替えのため閉室

今回は、はじめて工芸にふれる方にもわかりやすくということ、普段の展示よりもやさしい解説をここがけています。ここでは、陶磁、漆工、染織、金工、木工という代表的なジャンルについて、改めて述べてみましょう。

陶磁は、陶器と磁器という二つの種類のやきものをまとめていう呼び方です。陶器は粘土から作ります。土器より高く、磁器より低い温度で焼き上げます。光を透しにくく、少しの水なら吸う性質があります。一方磁器は、陶石という特別な石を砕いたものを原料とし、時に一四〇〇度を超える高温で焼き上げます。光を透しやすく、水を吸うことはありません。

漆工は、ウルシの木からとれる樹液を使った工芸のことです。漆は空気中の水分と反応して乾燥する性質があるので、湿度の高い北陸の風土に根ざした工芸といえます。木だけでなく編んだ竹や金属、布を固めたもの(乾漆)など、様々なものに塗ることができます。また金銀や螺鈿、卵の殻などを使った装飾技法が発達しています。

染織は染めと織りの総称です。染めは、織られた白い布を後から染めたもので、無地に染める場合と、模様を染める場合があります。織りは、糸の時点で染めておいて、その色糸を使って布を織り上げます。無地織りの他に、模様が浮き上がるように織るものもあります。

金工は、金属を使った工芸のことです。形を作るには、高温で溶かし、型に流し込んで成形する鍍金や、ハンマーなどでたたいて打ち延ばしたり曲げたりして

成形する鍛金といった技法があり、装飾には、表面をノミで彫ったりして模様をつける彫金があります。

木工は、様々な種類の木材を使った工芸です。木の板を組み合わせて箱などを作る指物、木をくり抜いて器を作る刳物、木をろくろで回転させて、そこに刃物をあてて削っていく挽物、木を曲げて丸みのある形を作る曲物などの技法があります。

会場では、「はじめてみつけた!」と題して、今回の展示ではじめて知ったことや作品をみて見つけたこととお書きいただく用紙を設置しています。お書きいただいた用紙は、会期中、会場にて掲示させていただきます。お子さんだけでなく、大人の方もぜひご参加いただけるとても楽しい企画です。



三谷吾一《双魚飾皿》(後期展示)



渥美新一郎
《友禅茶鼠地雑流水草花文訪問着「野分」》(前期展示)



米沢弘安《金銀象嵌鴛鴦香炉》



川北浩一《樺造盛器》(前期展示)

近現代彫刻(第4展示室)

没後50年 木村珪二

8月12日(木)～9月12日(日) 会期中無休

二〇二一年に没後五十年を迎える金沢出身の彫刻家・木村珪二の特集展示を開催します。

木村は明治三十七年に陶芸家・友田安清の次男として生まれました。絵を描く父の姿に影響されて画家を目指すようになった木村は、東京美術学校(現・東京藝術大学)の入学試験を受けます。その際に彫刻を勧められ、彫刻の道に進みました。在学中に帝展に初入選。引き続き帝展・文展・日展を舞台に活躍し、昭和十一年およびその翌年には文展で特選を受賞しました。

作風は、正確な人体構造への理解に基づく力強い写実です。同郷の師である吉田三郎のそれを受け継ぎつつ、生涯を通じて、青年の若々しい姿、世相を象徴したもの、作者自身の心の葛藤などを男性像として表現し続けました。

石川県立美術館では木村の作品を四十八点収蔵しています。本展示では、初期の珍しい裸婦像《女》昭和初期)から最後の日展出品作となった《折られていた花》(昭和四十五年)まで、木村の代表作を紹介いたします。また、造形教育について語った文章、真面目で約束は守るさっしりした性格、しかしいったん彫刻を離れると弟子や学生をよく笑わせたという魅力的な人物像なども紹介いたします。

この機会に、木村珪二の世界を味わっていただければと思います。また、代表作の解説を8ページに掲載しますので、そちらもぜひご覧ください。

◆関連行事のお知らせ

本展示の関連行事として、「ダンス・ウエル」彫刻とともに」を開催します。

「ダンス・ウエル」は、パーキンソン病とともに生きる方々を含む、子どもから大人まで、年齢や経験に関わらずどなたにも開かれたダンス活動です。イタリ

アで始まった活動で、石川県ではDance Well石川実行委員会による定期的なダンス・ウエルクラスが開催されています。当館で以前開催した二〇一九年と同様、ダンス・ウエル指導者として国内初の認定を受けたなかむらくるみ氏(ダンス・アーティスト)をお招きし、木村珪二作品が展示されている空間で身体を動かします。

普段私たちは「観る」、つまり視覚を用いて作品と出会うことが多いかもしれませんが、ダンス・ウエルの活動では、作品をただだけでなく、全身で、ダンスを介して鑑賞していきます。作品との新しい出会いを、あなたも味わってみませんか。

ダンス・ウエル「彫刻とともに」

日時：9月5日(日)

午前の部：10時30分～11時30分

午後の部：13時30分～14時30分

*終了後アフタートークあり(30分程度)

*いずれかの時間帯へお申込みください

会場：当館第4展示室

料金：無料(観覧券不要)

定員：15名 *先着順に受付

対象：年齢やダンス経験の有無に関わらず、どなたでも

お申込方法：電話かメールでお申込みください

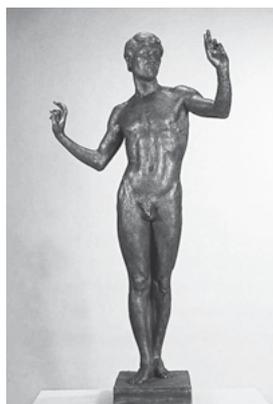
電話 076-2331-7580

メール ishibi@pref.ishikawa.lg.jp

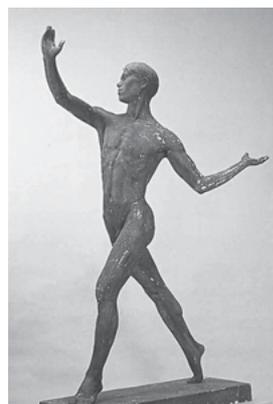
件名 「ダンス・ウエル」参加申込

本文 ①参加者氏名 ②年齢 ③電話番号

④参加希望回(午前 or 午後)



木村珪二《わかれみち》



木村珪二《曙光》



ダンス・ウエルについて詳しくはこちら
<https://www.dancewellishikawa.com/>

展覧会回顧

かお・すがた・こころ

—肖像と近代—

昨春、コロナ禍により中止となった「かお・すがた・こころ—いしかわゆかりの肖像—」展。あれから一年、満を持して展覧会を刷新。基本コンセプトを「肖像を通して近代を知る」に拡大し、サブタイトルも「肖像と近代」としました。「肖像から近代を知るとは大仰な」と思われる向きもあったでしょう。肖像という、地位ある人を描いたものと思われがちです。しかし本展をご覧になった方は、多種多様な肖像が、時代を映す鏡となったことに領いていただけたはず。東京国立近代美術館をはじめ、全国から結集した五十点と当館所蔵品を合わせて九十点に及ぶ、なんとも壮観な展示となりました。

しかし、なんと……、再びコロナ禍に見舞われたのです。五月に入り、石川緊急事態宣言が発出。十二日間の会期短縮を余儀なくされました。「展覧会は不要でも不急でもない」と踏ん張ってきただけに、心が折れそうになりました。それを支えてくれたのは、お客様からのたくさんのお言葉でした。一端を紹介すると、「よい企画だった」「テーマも興味深く、ライティングや展示もよかった」「東京でないと思われないう有名な絵も多く、とても満足した」「心が熱くなりました」「とても充実した展示でした。住んでいる街にこのような美術館があることが誇りです」等々。書き連ねると少々面映いですが、これらを糧として今後美術館活動に勤しんで参ります。



※5月12日(水)より休館)

(会期…令和3年4月18日(日)～5月23日(日)

近現代絵画・彫刻(第3・6展示室)

優品選

8月12日(木)～9月12日(日) 会期中無休

夏本番の季節に美術館で作品からも涼を感じて頂こうと、第6展示室の日本画分野では、水の表現をご覧いただく小特集を組みました。それも雄大な大海原などではなく、街角やちよつと足を伸ばせば目にするような、小さな自然や水面がメインです。平木孝志《磯》は、小さな潮溜まりに集まるイソガニの群れを、ズームアップして捉えています。懸命に生きる蟹たちがなぜかユーモラスです。彫刻作品でも「水の表現」に合わせた作品を展示する予定です。絵画作品とともに楽しんでください。

第3展示室の油彩画・彫刻分野では、動物をモチーフとした作品を展示いたします。正面から三頭の競走馬を鮮烈な色彩で描く油彩画の南政善《馬ならぶ》は、昭和十一年文展鑑査展に出品され、様式化や構図

が面白く、色調や描写も優れていると評価されました。二十八歳の若さで描いた力強く印象深い作品です。彫刻分野では、特集展示を同時開催している木村珪二、その師である吉田三郎など、石川ゆかりの彫刻家による動物作品を展示いたします。

また、書家 表立雲氏が五月二十六日、九五歳で逝去され、追悼展示を行っています。表氏は戦後書壇の立役者でしたが、後に中央書壇から距離をとり、作家の獨創性を重んじた自由な創作研究者の道を歩みました。書の古典にこだわり臨模による古典書法研究に取り組みながらも、書という概念を打ち破る文字のもつ魅力、表氏の個性で謳い上げている作品をご覧ください。



表立雲《参差Ⅱ》

8月前半の展覧会

8月8日(日・祝)まで

企画展 加賀百万石 文武の誉れ―歴史と継承―

前田家歴代藩主の甲冑・陣羽織と加賀象嵌鏡Ⅱ

【前田育徳会尊經閣文庫分館】

琳派コレクションⅡ ―宗達・宗雪・光琳・乾山― 【古美術】

特別陳列 夏休み親子で楽しむ美術館 はじめての工芸【近現代工芸】

ひとのからだ ―身体をめぐる表現―【近現代絵画・彫刻】

優品選【近現代絵画・彫刻】

寺川 和子(学芸第二課長)

近現代工芸担当の寺川です。4月から学芸第二課長になりました。二課の仕事は主に作品の管理です。貸出や修復の窓口として、複数のスケジュールを管理、電話で問い合わせを受けることも多い課です。電話で受けた用件を書いた付箋が、次々とデスク周りにたまって落ち着かないため、付箋貼付専用スタンドを購入、一目で懸案事項が分かり快適になりました。

ところが私の机の上の見慣れぬモノを見た方は、決まってこう言うのです。「寺川さん、また新しいツール導入したんですか」。

用務を円滑に進めるためのささやかな工夫は、周りから趣味の環境と認識されているのかもしれない。

8月の行事予定

子どもツアー(企画展「加賀百万石 文武の誉れ―歴史と継承―」関連行事)	10時30分～11時
企画展のみどころや楽しみ方を、学芸員がわかりやすくお話し ます。	
対象：小中学生(定員20名)	
料 金：無料(保護者の方は、2人目から要観覧料)	
受付：10時より企画展示室前にて	
子ども学芸員体験	13時30分～15時30分
美術館で働く学芸員になつてみよう！美術館の裏側探検と作品 解説づくりを体験できます。	
対象：小学4・5・6年生 親子(定員10組) ※先着順	
料 金：無料	
※定員に達しましたので申込受付終了しました	
キッズ・プログラム鑑賞講座「はじめての工芸」	10時30分～11時30分
コレクション展「はじめての工芸」を鑑賞します。学芸員と一緒 に、ワークシートに挑戦しよう！	
対象：小学生親子(定員20名)	
参加無料、申込不要	
受付：10時よりコレクション展示室受付前にて	
映像ギャラリー	14時30分～15時30分 美術館ホールにて 無料
「絵に見る日本の美術のよさ」 ―表現の多様性と美しさを探る―(23分)	
「日本の美― 滲みの感覚」(25分)	
「彫刻に見る日本のよさや美しさ」(21分)	
「シリーズ北陸の工芸作家 石川の匠たち 即是色 人間国宝 三代徳田八十吉」(24分)	
22日(日)	

※日時や定員等を変更、または中止する場合がございます。
最新情報は当館公式ウェブサイトをご確認ください。

学芸室の人々

《崩壊》ほうかい

高266.0 幅58.0 奥行109.0(cm)
昭和43年(1968) 第11回新日展

木村珪二 きむら・けいじ

明治37年(1904)～昭和46年(1971)



顔を伏せて天に向かって手を伸ばす、筋骨たくましい若者。写真では表情は見えませんが、静かに目を閉じています。不安定な足場に立ちながら、必死に崩壊への抵抗を試みているのか、天にエネルギーを放っているのか。ドラマティックなポーズの人体は、高さ2メートル66センチという大きなサイズも相まって、ただならぬ気迫を感じさせます。

本作は、作者の木村珪二が六十四歳になる年に制作されました。死の二年前にあたります。木村はそれまで健康で希望にあふれた男子像を多く制作していましたが、それらとは明らかに異なり、悲しみや絶望がにじみ出るような作品です。この時期の木村は、分岐点を示唆する《わかれみち》(昭和四十二年)、枯れた蓮を持ち下を向く男性像《折られていた花》(昭和四十五年)など、寓意的な作品を次々と発表していますが、それらの作品の中で一番の大作です。第十一回新日展に出品したほか、亡くなった年の第三回改組日展(昭和四十六年)にも、遺作出品として本作が出品されました。まさに木村の代表作といえるでしょう。

本作は、八月十二日(木)～九月十二日(日)に開催されるコレクション展「没後50年 木村珪二」にて展示いたします。右記に紹介した同時期の作品も展示しますので、ぜひご覧ください。

次回の展覧会

令和3年9月18日(土)
～10月17日(日)
会期中無休前田育徳会
尊経閣文庫分館

第2展示室

百工比照

古九谷と再興九谷Ⅱ

第3・4展示室

第5・6展示室

1F企画展示室

優品選
【近現代絵画・彫刻】壺中日月長
大樋陶冶斎のまなざし
【近現代工芸】オールドノリタケ×
若林コレクション

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)

大学生 290円(230円)

高校生以下 無料

※()内は団体料金

8月2日は第1月曜日より

コレクション展示室無料の日

8月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00 年中無休

8月の休館日は

9日(月・休)～11日(水)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎ 092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 株票石川県立美術館だより
第454号(毎月発行)
2021年8月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>石川県立美術館は電源立地地域対策
交付金を活用して運営しています。